

への、讃歌に終わったように思う。環境破壊、核兵器等の問題に象徴されるいくつかの現象の中で、文明の功罪や、人類生存の危機が現実的に論じられている現状の中で、それはいかにも甘い。ことばが作り上げた文明の疎外現象を、ことばが支える知恵で克服しなければならない。その展望を切り拓くための道すじを探って行くことが教育のはずだ。

教授技術的にもいくつかの欠点があった。生徒も指

摘しているように、50分間ほとんど一方的に話し続けの授業であったこと。ビデオを使うなり、O.H.Pを使うなりして変化を持たせないと、眠くなるのは当然である。また、内容的にも授業の文体も、中学3年生にとって、かなり難解なものであったように思う。難しい内容をやさしい「ことば」で伝えられなければ、いい授業とは言えない。

## (5) 総合学習 ⑩ 生きているとはどんなことか

——チャップリン「街の灯」を見ながら—— の授業の後で

川 田 基 生

はじめに 総合学習グループの第10回の公開授業を3月3日(木曜)1時間目におこないました。以下、授業の記録と授業のあとでの感想と反省を述べます。《3月2日の授業》事前につくった指導案では、1時間でまとめる予定のところ、高校入試合格発表直後、卒業式直前の時期の中学3年ということで、日ごろの授業への集中力を期待できないため、『チャップリン自伝』を読む時間と、映画を見る時間の2時間に分けることにした。公開授業は後者、2時間目である。

『チャップリン自伝』中野好夫訳からの抜粋  
こうしたドン底の貧乏暮らしをしているうちに、母は偏頭痛に悩まされるようになり、針仕事もできなくなった。膏薬がわりにお茶の葉を眼に貼って、何日間も暗い部屋で寝ているよりほか仕方がなかった。ピカソには青の時代というのがあったが、教区の慈善にすがって、スープのチケットと救恤袋だけで生きつないでいたわたしたちのあのころは、さしずめ灰色の時代だった。シドニイは学校の休み時間に新聞売りをした。稼ぎは微々たるものだったが、いくらかは家計の助けになった。しかし、危機というものはつづいているうちに、必ずクライマックスがやってくる — わたしたちの場合、それはうれしいクライマックスだった。  
ある日のこと、眼にはまだお茶の葉を貼ったままだったが、ちょうど母の頭痛がおさまりにかけていたときだった。突然シドニイが暗くした部屋にとびこんできた。新聞の束をどきりとベッドの上に投げだすと、「財布を拾った、！」と大声にいった。母が受けとってあけてみると、銀貨や銅貨がいっぱい詰っているではないか。……しかも、そこにはゾウリン金貨が7枚もはいっている。わた

したちは文字通り狂喜した。名刺もなんにもはいていない。信仰からする良心のとがめも、この場合母にはあまりはたらかなかったようだった。不運な落し主のことを思うと、さすがにちょっと気はすすまなかったが、それもまもなく、きっとこれは神さまが天国から送ってくださったお恵みにちがいないという母の確信の前に、たちまち消えてしまったのである。

母の偏頭痛がはたして肉体的なものだったか、あるいはただ心理的なものにすぎなかったか、そこまではわたしにもわからない。が、とにかく一週間もするとケロリとなおってしまった。よくなるのを待って、わたしたちはサウスエンド＝オン＝シーへ日帰り旅行に出かけた。母はわたしたち二人に真新しい服を買ってくれた。

生まれてはじめて見る海は、わたしをすっかりうっとりさせた。輝く陽しを浴びながら丘の上の道からおりてゆくと、海はまるで小刻みに震えながら、いまにも襲いかからんばかりに身構えている怪物のように、一瞬びたりととまって見えた。わたしたち三人は素足になって水とたわむれた。生ぬるい海水が足の甲やかかとを包み、足の裏でやわらかく崩れる砂の感じは、生まれてはじめて知る喜びだった。(生徒に配布したプリントは、ワラ判紙4枚分)

### 生徒感想文

前に一度か二度くらい、テレビで、チャップリンの黄金時代の映画を見たことがある。画面は白黒でセリフのかわりに音楽が流れ、時々説明のようなものが入るだけだった。それでもなぜかその軽快な喜劇性が人々の笑いをさそった。

そんな主人公のチャップリンが、このような暗い時

代を通りぬけてきたなどは夢にも思わなかった。画面から見られる彼の姿は常に生き生きとして、そんな暗さを全く感じさせなかったからである。この物語はそういった彼にとってつらく苦しかった時期のことがかかっているが、特に感動したところは、彼の母が芝居をしていた頃を思い出しながら衰えた喉でうたい、踊ったというところである。彼女は、心から芝居を愛する人間だった。それからもどンドン生活はゆきづまっていき、貧民院に入ることになってしまったが、このまま不幸のどん底をたどっていくのだろうか。又、機会があれば続きを読みたい。

《 3月3日の授業 》

VTR チャップリン「街の灯」の次の場面

街で娘が花を売っている。まず、夫人をつれた品のよい男が登場して花を買う。街路は上品な雰囲気がある。

一方、チャップリン、お金もゆくあてもなく、ぶらぶら歩いている。道路を横切ろうとするが、動きのとれぬ車の渋滞。ついに意を決したチャップリン、豪華な自動車のドアをあけてのりこみ、反対のドアから出たところで花売り娘と顔を合わせる。

娘がチャップリンに花をさし出す。彼は娘の目のみえないことをさとる。花が下に落ちてしまう。チャップリンはひろってあげる。盲目の娘が二度目に花をさし出す。チャップリンはあり金の最後の一枚の硬貨で買う。このシーン、ずっと止まっていた車の主人がもどってきて、ドアがしまり、車は動き去る。娘は、今の客は豪華な自動車から降りてきた金持ちの男と思ひこむ。



「街の灯」(アメリカ、チャールズ・チャップリン監督・主演、1931年)より

教師 チャップリンの映画の今の場面で、チャップリンへの、お母さんの影響がどんなふうにてているだろうか。

生徒<sub>1</sub> そうですね。まず、チャップリンの母親がやっていたように自分がやれるせいっぱいのことをやっていた。それとあと、その女の人が、がっかりしな

いよう、自分が紳士のままで去っていったのが、せいっぱいいい。

教師 自分にできる最大のことは具体的にどういうこと?

生徒<sub>1</sub> たとえば金が一枚しかなかったのに全部あげてしまった。あとは、花をひろってやった。それ以上のことはできないから。

教師 みんなに見せた場面のちょっと前のところでチャップリンは、ボロボロの手袋で指がのぞいているところを、中学生くらいの子供たちに笑われる、というところがあります。そのあと、あてもなく歩いてきて今の場面。お金の使い方も似ているね。

さて、今日の授業は、総合学習の第10回。このシリーズでは、人間とは何か、が全体のテーマです。そして今日で第10回。今日は、チャップリンのお母さんのどんなところが人間的なのか。みんなにいくつか出してもらって、出てきたいいくつかのを通して、それでは人間的ってどんなことか考えてみましょう。そして、みんなのそれぞれの意見を出してもらい、そのあと、それがあっているかどうか、もう一つの映画を見ながら、自分でたしかめてみる。それで今日のところは終り、という予定です。それでは、前の時間に読んだ「チャップリン自伝」のプリントを出して下さい。チャップリンのお母さん、どこが人間的か。私は人間的ってこういうことだと思う。というのを、この紙に書きなさい。ワラ判紙¼の大きさの用紙配布。以下の表示は、発言した生徒の筆記提出した内容。

教師 さて、チャップリンのお母さんのどんなところが人間的かと思いましたが、Iさん。

生徒<sub>2</sub> ひろったお金を使ってしまったこと

回収したワラ判紙¼に書いてあった生徒<sub>2</sub>の意見  
○シドニーが財布を拾った時交番にとどけずに使ってしまったところ。私も使ってしまうだろう。チャップリンのお母さんとちがうところは、一度に使ってしまわないところだと思う。  
○お母さんは教会へ行くようになってから舞台の友達とはめったに会わなくなって芸人の世界は空気のように消え去り、ただの思い出にすぎなくなったのに、舞台衣裳のつまったトランクが最後に一個のこったところ。

教師 そうですね。シドニーというのは兄の名前。女の子ではありません。日ごろ教会にかよって涙をながしてお説教を聞いているお母さんが、ひろったお金を使ってしまいますね。

この場面を画用紙に書いてきた絵を黒板上に掲示。

生徒 (ちょっと笑う。)

**教師** では、他の人は？

**生徒<sub>3</sub>** 貧しくても子供への愛情をわすれなかったところ。

○ 宗教を信じたよったこと。人間は苦しかったり悲しかったりするとすぐ他のものにたよろうとする弱い者。  
○ 貧しくても、子供たちのことをいつも考えていること。  
○ 人間らしい愛情がある。  
○ すばらしい世界にたどりついたと思っていたこと。いつも愛をもっている。

**教師** K君は？

**生徒<sub>4</sub>** ………

最後まで衣しょうを捨てなかったということで、自分の持っている希望をいつの日にか実現できるだろうと思っているところ。

**教師** N君。

**生徒<sub>5</sub>** 宗教を信じていること。

チャップリンが病気のとき、母がイエスのことを話したりしてたことが人間的だと思う。

**教師** H君は？

**生徒<sub>6</sub>** やさしいけど、せこい。

チャップリンのお母さん、やさしいが、せこい面もある。ここの所に人間らしさがあると思う。それと中途半ばでない。最後までつくす。

**教師** やさしいけど、せこい。そうだね。チャップリンのお母さん、信仰心にあふれている。… しかし、そうでもない。

黒板に大きめにAと書き、しかし、で、 $\tilde{A}$ と書く。先ほどから黒板に自作の絵を2枚。幼いチャップリンに、舞台であたりをとった時のおどりをおどってみせる母と、ミシンのそばでうずくまる母がならべてかいてあるのが一枚。もう一枚は、病気でねている母とサイフを持って狂喜している母の並記してある絵。そうでもないといいながら、絵の方を指さす。

**教師** 人間的ってどんなことか。君たちの答えは、君たちの手もとの紙に書いてある。どんな答えかな。これから15分ほど、短い映画を見ます。それを見ながら、自分の考えがあっているか、ちょっとおかしいのか考えてみましょう。

このあと、ハリー・ランドン主演の喜劇を約15分放映。映画の終了とともに、授業も終わる。

#### 授業のあとで

映画『街の灯』のラストシーン。娘は、チャップリンのおかげで、目が見えるようになっている。ぼろ着姿のチャップリンを子供たちがはやしたてる。彼は子供を追いちらし、疲れはてて倒れる。やっとおきあがって、ふりむくと、愛するその娘と顔をあわせる。女は、かれが子供たちからかわれていた一部始終をずっと見ていたのだ。「いま、あたし、見てたのよ」瞳には驚きとあわれみがうかんでいる。男の目に、苦痛と悲しみと、動揺とがいきりまじる。

公開授業のあと、それを思い出すのはほとんど苦痛とあっていい。授業を見に来た方々、この授業記録を読まれた方々の「いま、あたし見てたのよ」の声が聞こえてくるような気がします。

しかし、今回、素直な感想として、話したいことが話せた、グループの人とみんなでやれたという充実感が残っています。他の人が授業をやった後、VTRを見ながら夕暮までの討論。夏の終わり、佐久島にあつまっての勉強会。豊かな表情が印象に残っています。自由で一回限りで、次々に風景（授業）がかわっていった一年間をふりかえてみると、それは旅に似ていたように思います。